

※本文内の()内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願状況全体概況

□一般選抜志願者数は前年度並

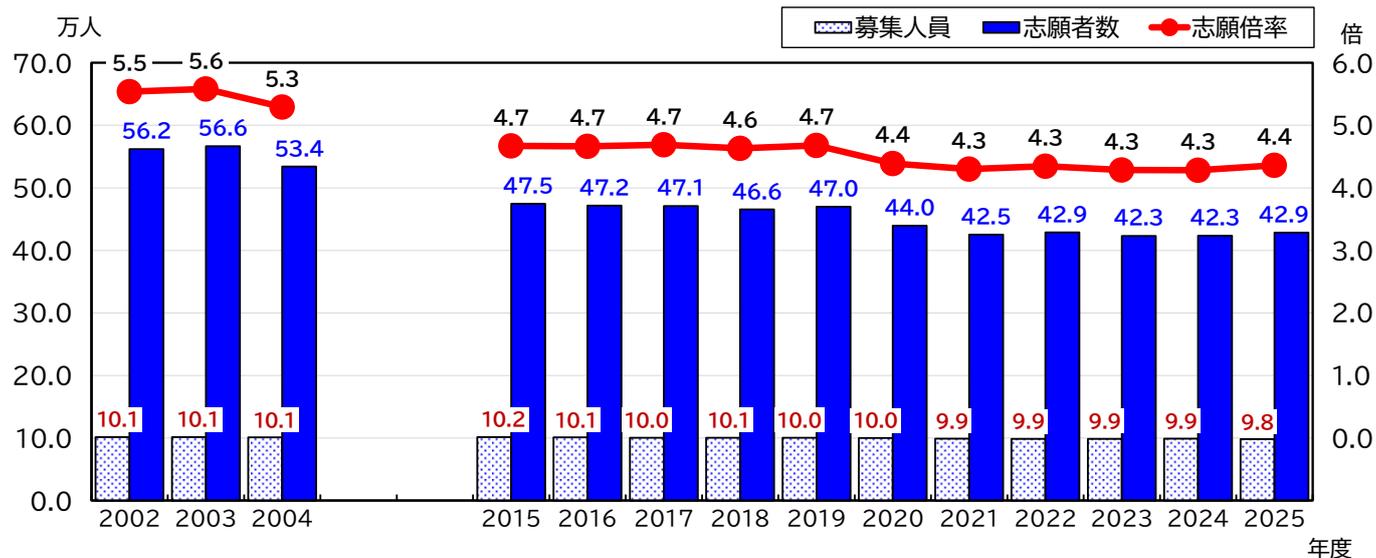
〔設置・日程別志願状況〕

設置	日程	2025年度					2024年度		
		募集人員	志願者数	志願倍率	増減数	指数	募集人員	志願者数	志願倍率
国立	前期	63,511	178,611	2.81	+1,091	101	63,695	177,520	2.79
	後期	12,243	121,128	9.89	-1,067	99	12,644	122,195	9.66
	合計	75,754	299,739	3.96	+24	100	76,339	299,715	3.93
公立	前期	16,872	57,108	3.38	+2,284	104	16,791	54,824	3.27
	後期	3,222	38,813	12.05	+1,160	103	3,348	37,653	11.25
	中期	2,388	32,841	13.75	+1,773	106	2,400	31,068	12.95
	合計	22,482	128,762	5.73	+5,217	104	22,539	123,545	5.48
合計	前期	80,383	235,719	2.93	+3,375	101	80,486	232,344	2.89
	後期	15,465	159,941	10.34	+93	100	15,992	159,848	10.00
	中期	2,388	32,841	13.75	+1,773	106	2,400	31,068	12.95
	合計	98,236	428,501	4.36	+5,263	101	98,878	423,238	4.28

※独自日程で入試を実施している国際教養大、新潟県立大、叡啓大、芸術文化観光専門職大学を除く。

文部科学省が2月19日に発表した2025年度国公立大一般選抜の確定志願状況によると、確定志願者数(独自日程で入試を実施している国際教養大、新潟県立大、叡啓大、芸術文化観光専門職大を除く)は428,501人で、前年度と比べて5,263人(101)の増加で前年度並となり、共通テスト受験者数の前年度対比指数(101)と同じになりました。共通テストの平均点アップにより、あきらめることなく受験生が出願したことがうかがえます。また、地方の根強い地元志向や厳しい経済状況が予想される中で、国公立大志向の高まりがみられました。なお、募集人員は後期日程の廃止などで国公立大全体では642人の微減でしたが、志願倍率は4.28倍→4.36倍とほぼ前年度並でした。

〔確定志願者数推移〕(独自日程を除く)



□国立大は前年度並、公立大はやや増加

【設置別】

国立大……前期は1,091人(101)の微増、後期は1,067人(99)の微減でした。この結果、国立大全体では24人(100)の前年度並となりました。

公立大……いずれの日程も増加で、前期は2,284人(104)、中期は1,773人(106)、後期は1,160人(103)のいずれもやや増加でした。地方公立大を志望するボリュームゾーンの受験生にとっては、共通テストの平均点アップにより手堅く出願したことがうかがえ、公立大全体では5,217人(104)のやや増加で、6年ぶりに増加しました。

【日程別】

前期……募集人員は103人減少しましたが、志願者数は3,375人(101)増加したため、志願倍率は2.89倍→2.93倍と0.04ポイントアップしました。志願倍率は2021年度から5年連続3倍を下回りました。

後期……志願者数は93人増加(100)でしたが、後期廃止の大学もあり、募集人員は527人減少したため、志願倍率は10.00倍→10.34倍と0.34ポイントアップとなりました。

中期……志願者数は1,773人(106)のやや増加でしたが、募集人員は12人減少したため、志願倍率は12.95倍→13.75倍と0.80ポイントアップしました。